

暮らし、経済、平和に希望もてる政治を

むらほ 衆院、尾村県議が集いで語る

日本共産党の、むらほえりこ衆院島根1区予定候補、尾村利成県議は1月19日、松江市内で開かれた党比津支部主



催・あすなる後援会の集いで、国民の声を聞かない岸田政権の政治に対し、国民の怒りが広がっているとして「アメリカいいなり、財界のもうけ最優先の政治のゆがみを正そう」と訴えました。(写真)

参加した約30人を前に、むらほ氏は党の「経済再生プラン」を縦横に語り、日本経済を再生するには、既得権益にしがみついた財界・大企業の抵抗を乗り越える必要がある

多様性を認める社会に

松江で初のレインボーパレード

ると指摘。「企業・団体献金とは無縁な日本共産党を大きく伸ばしてほしい」と呼びかけました。尾村県議は、食料自給率、水道料金の格差、養護老人ホームなど11月

LGBTQ（性的少数者）を始め、多様な性のあり方を当事者や支援者らがアピールする「島根レインボーパレード」が11月25日、松江市内で初めて開かれました。

県内外から約200人が集まり、多様性を表す

県議会で取り上げる質問について報告しました。参加者からは、「地球温暖化など気候危機」や「使用済み燃料の処理方法」などの質問が出されました。

虹色の旗やプラカードを掲げ、誰もが自分らしく暮らせる社会の実現を願って、松江テルサから松江城までの約2・3kmを1時間半かけて行進しました。

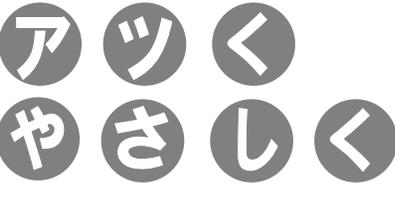
松江テルサには、大阪や岩手、熊本などから当

先輩・仲間の奮闘に胸アツク

11月中旬、2年半ぶりの開催となった日本共産党広島県労働者後援会の総会は前回比1・5倍の参加者が集い



大平よしのぶ 衆院議員



アツく語りあいました。「ガザの病院が戦場となっている姿を目の当たりにし、一刻も早く止めた」と願うとともに、

私たちは傷ついた兵士を治療して再び戦場に送るような医療従事者には絶対にならないと決意する」(医療)

「ヤマト運輸で働くパート従業員、個人事業主」から相談が。解雇撤回を求めて一緒に団交や世論を広げるたたかいにとりくんでいる」(自労)

「会計年度任用職員の待遇改善にとりくみ続け、勤勉手当支給などの前進を勝ちとってきた」(自治体)

が我々のたたかいかいこそが、労働者の権利や暮らしを守っている」と自負している」(郵政)

事務局は「労働者の要求実現のために、強く大きな党をつくって大平を再び国会へ送ろう」と呼びかけ、K会長は「私も大会決議案を読んで青年2人に赤旗購読を呼びかけ、一人が読んでくれることになった」と自らの実践も報告。

労働者としての矜持、労働組合としての使命、そして労働者後援会員らしい宣伝や赤旗増やし：先輩たち、仲間たちのがんばりに胸を熱くし、伴走への決意をあらためて固めました。

総会が終わる時計をみると、会議終了予定時刻の20時半ピッタリ。これも労働者としての力か。思わず感嘆の声をあげました。(11月25日記)

地域の話題

防災・減災最優先に 後藤議員が質す

後藤議員「7月8日からの大雨災害で道路河川の被害が発生した。一昨年の豪雨による災害復旧工事が終わらない中、再び同じ場所で浸水被害等が発生している。今後、気候変動により激甚化・頻発化が予想され、市民の命と安全を守るためにも、今後の公

の状況や浸水区域の把握を行い、適時、計画を見直し、必要な予算確保を行っていく。防災・減災事業の推進を国や県へ働きかけるとともに、事業の執行体制と予算確保に努める。(「ことう由美の市議会報告」より)

18歳までの医療費無料化 日高議員が要望

日高議員「どこに住んでいても子ども医療費の心配なく安心して子育てができるよう地域間格差をなくすことが必要。子育て支援施策において軸足をどこに置くのか、町長の決断次第ではないか。担当課長「子ども条例に基づき、健康の確保・増

進に関する施策の充実を図る。来年度からの実施に向けて、庁内の関連課で前向きに検討している。町長「課長は一歩踏み込んだ発言をした。裏づけがあるということだ。(「日高やえみ議会報告」より)

一般会計補正予算で、スマートフォンを活用し、市民が直接情報をやり取りするシステムが実現。道路などの破損箇所直接通報機能が実現する見通しです。日常的に、気軽に、だれでも連絡・相談できるようにしますが、連絡は迅速にできても、実際の対応が友輪なければ意味がありません。(「森川よしひでの議会だより」より)

「日本共産党の」 国会 ジェンダー質問 国会議員21人 ジェンダー関連の国会質問は2年間で125回以上

国会質問 「しんぶん赤旗」のHPから「国会議員の質問」ページで読めます。

大平よしのぶを スマホでチェック QRで各種SNSへ GO!